

実践報告

大学におけるスポーツを通じた地域貢献活動
 - 中学生を対象としたバスケットボールクリニック -
 Regional contribution activities through sports in a University
 - A basketball clinic for junior high school students -

中尾 綾
 Aya NAKAO

日本福祉大学 スポーツ科学センター
 Center For Sports Sciences, Nihon Fukushi Univeristy

はじめに

1. 大学のスポーツを通じた地域貢献活動

現在、さまざまな大学でスポーツを通じた地域貢献活動が盛んに行われている（宮良，2010）。その内容は、学生を地域に結びつけてスポーツイベントの運営や指導を行ったりすることがほとんどである。このような地域貢献活動は、地域住民にとっては一般的に競技力の高い選手の動きを間近で見ることができると感じる機会となり、学生にとっては大学の授業だけではなかなか育てられない「実践力」を養う貴重な機会となっている（富山・他，2011）。大学が地域貢献活動を行う意義としては、研究の成果に基づいた実践の場であり、研究のデータを核とする場であること（富山・他，2011）、大学の個性・特色に応じて、地域社会に貢献する人材の育成につながる場であること（宮良，2010）が挙げられる。

また、平成29年の文部科学省の大学スポーツの振興に関する検討会議（最終とりまとめ）では、「大学にはスポーツに係る豊富な人材や充実した施設を有しているものもあることから、スポーツ基本計画（文部科学省，2012）においても、地域スポーツと企業・大学等との連携が掲げられており、スポー

ツを通じた社会の発展を支える存在として、大学スポーツはこれからも重要なポジションを占めていくものと考えられている。」とある。このように国からの期待も大きく、今後さらに活動の幅を広げていく可能性が高いと考えられる。

2. 本学における特別強化指定部

本学には、スポーツ振興強化政策の柱として特別強化指定部制度がある。特別強化指定部は、強化対象と振興対象とを明確に定め、さらに強化対象を「特別強化A」、「特別強化B」に区分けし、それぞれの方針や目標に応じた推進を行う。また、活動組織の呼称についても、特別強化対象については「部」とし、それ以外の振興対象組織については、「サークル」として差別化を図っている。

特別強化指定部には、本学におけるスポーツ教育・研究・文化の牽引者としての役割が期待されており、競技力向上に加え地域貢献事業への積極的な取り組みを求められている。実際に各部で行われているものとしては、小・中学生を対象としたクリニック活動、地域でのごみ拾い活動、地元みはまスポーツクラブでの教室開催などがある。

本報告では、2017年度に特別強化指定部である女子バスケットボール部が実施した中学生対象のバスケットボールクリニックの実践内容とアンケート調査の結果から、大学生および中学生への影響について検討した。

．クリニック実施内容

1. 参加者

- ・本学女子バスケットボール部員 16名
- ・愛知県内の中学バスケットボールチーム (3チーム) に所属する中学生 45名程度

2. 日程

2017年6月3日 (土)

1部 10:00~12:00 基礎練習を中心とした練習

昼食 12:30~ 交流会

2部 13:30~16:00 実践形式の練習

3. 場所

日本福祉大学 美浜キャンパス内 SALTO スポー

ツ演習室

4. 実践内容

大学生と中学生がクリニックでの初顔合わせだったため、最初は数名のグループに分かれて自己紹介を行った。ここでは、お互いのコートネームを覚えるほか、自己PRを交えてのコミュニケーションを図った。その後、練習へと移った。

練習内容の詳細は表1に示す。各練習メニューを行う前に一度集合し、監督が練習のポイントを全体に説明した。その後、大学生1人と中学生3から4名とがペアになり、大学生が手本を見せながら細かい技術指導を行った。クリニックでの練習風景を、写真1から写真5に示す。

表1 クリニックの練習内容

内 容	詳 細	練習のポイント
ウォーミングアップ	動的ストレッチ、フットワーク、ダッシュなどを中心としたアップ。	一つ一つの動作の目的を理解する。
ドリブル練習	ボールを2つ使い、さまざまな種類のドリブルを練習。	ドリブル時の姿勢と視線。安定したハンドリング。
パス練習	三角パス：バスケットに必要な動作を交えたパストリル。(チェストパス・サイドパス・バウンズパス・ランニングパス)	パスのスピードと、走り出しのタイミング。パスボイスとキャッチボイスでのコミュニケーション。
シュート練習	ドリブルシュート：基本となるドリブルシュートに加え、ディフェンスをイメージしたステップシュートを練習。(ワンステップ・スピントーン・ユーロステップ・ギャロップステップ等)	ディフェンスの状況に応じたシュート選択が重要であることを理解する。
ディフェンス練習	ディフェンスフットワーク・1 on 1：基本動作の習得と、1 on 1での実践。	ディフェンスの基本姿勢。
アウトナンバー	ハーフコート3 on 2：数的優位を攻める。	積極的な攻撃と状況判断。ディフェンスのコミュニケーション。
ゲーム	5 on 5 (7分ゲーム)：大学生と中学生のミックス戦と、大学生 VS 中学生の2種類を実施。	練習したことを実戦形式の中で使ってみる。



写真1 ドリブル練習の様子



写真2 ディフェンス練習の様子



写真3 学生と中学生の1 on 1



写真4 混合チームによるゲーム



写真5 チーム内での円陣の様子

．クリニック実践からの検討

1. 参加した大学生および中学生に対するアンケート結果

クリニック終了後、参加した大学生と中学生にアンケート調査を行い、大学生16名と中学生34名から回答が得られた。集計結果を表2に示す。

2. 参加した大学生の意見および感想

アンケート調査の一部にクリニックへの意見およ

び感想を自由記述により回答させた。以下、抜粋したものを示す。(表現はそのまま記載)

【このようなクリニック活動がチーム(または個人)にとって重要だと思う(表2より)のはなぜですか?】

- ・教えることによって自分の中でも整理ができ、自分のできていないことが分かるから。
- ・バスケの上手下手ではなく、バスケを楽しんでい

表2 アンケート集計結果

クリニックはどうでしたか？ (n=50)

	大学生	中学生	合計
すごく楽しかった	11	22	33
楽しかった	5	12	17
普通	0	0	0
つまらなかった	0	0	0
すごくつまらなかった	0	0	0

大学生の指導はどうでしたか？ (n=34)

	中学生
すごく分かりやすかった	26
分かりやすかった	7
普通	1
分かりにくかった	0
全く分からなかった	0

どの練習が一番よかったですか？ (n=50)

	大学生	中学生	合計
ウォーミングアップ	0	5	5
ドリブル練習	0	4	4
パス練習	1	7	8
シュート練習	5	9	14
ディフェンス練習	1	0	1
攻防 (ゲーム含む)	9	9	18

相手に伝わるような指導ができたと思いますか？ (n=16)

	大学生
そう思う	0
まあまあそう思う	12
どちらともいえない	4
あまりそう思わない	0
そう思わない	0

中学生 (大学生) とコミュニケーションをとることができましたか？ (n=50)

	大学生	中学生	合計
できた	7	25	32
少しできた	9	8	17
どちらともいえない	0	1	1
あまりできなかった	0	0	0
できなかった	0	0	0

またクリニックに参加したいですか？ (n=34)

	中学生
参加したい	29
どちらともいえない	5
参加したくない	0

このような活動はチーム (または個人) にとって重要な活動だと思いますか？ (n=16)

	大学生
そう思う	12
まあまあそう思う	4
どちらともいえない	0
あまりそう思わない	0
そう思わない	0

る姿や、自分たちにはない元気な声など、自分たちが学ぶことも多いし、楽しいから。

- ・地域貢献活動としてクリニックを行うことで、地域の人たちに日本福祉大学の女子バスケットボール部を知ってもらえる良い機会になると思うから。
- ・ただ練習するだけではなく、教える側になってどこをどのように意識するのか伝えることによって自分も理解し、意識することができると思うから。

【今後、クリニック活動をよりよいものにするため

に、どのような工夫をしたらいいと思いますか？】

- ・まずは、バスケットの楽しさを知ってもらうことが大切だと思うので、私たち選手がもっと笑顔で行い、楽しい雰囲気を作っていく。名前がすぐに分かるように、名札をつける。
- ・大学生が大学生とかたまるのではなく、積極的に話しかける。練習が始まる前、終わった後も話しかける。
- ・もっと分かりやすく伝えられるよう、自分ももっとバスケットについて知る。

- ・練習を始める前に、自己紹介の時間をもう少し多くとることで、練習に入ってからコミュニケーションを取りやすくなると思う。
- ・お昼ご飯を一緒に食べたことでさらに交流が深まったと思うから、1日を通してやるときは、これからも一緒に食べたら良いと思った。

【クリニック全体の感想】

- ・相手に指導することは難しいと分かりました。自分の言葉で伝えることは、自分がしっかりと理解していなければいけないことなので、相手のためでもあるが、自分のためにも成長できる活動だと思いました。
- ・教えたら一生懸命やってくれるので、自分もその頑張る姿勢を見直したいと思った。
- ・一緒に練習をしてきた子とバスケット以外のことも話し、仲良くなれたと思うのでよかったです。
- ・中学生とのクリニックでは、同学年でも、レベルにばらつきがあるから、その子のレベルに合わせた教え方ができるようにしていきたいと思った。普段とは違う環境でバスケットができて楽しかった。
 - ・高校の時は、あまりクリニックなどはやったことがなく、実際あんまり楽しくないかなと思っていました。しかし、実際にやってみるとバスケットを楽しんでやる事が出来て、よい経験になりました！

3. 参加した中学生の感想

アンケート調査の一部に感想を自由記述により回答させた。以下、抜粋したものを示す。(表現はそのまま記載)

- ・バスケットの基本となる動きや体の使い方などを細かく教えていただいたので、試合にも活用できる良い経験が出来ました。
- ・パス練習では全員で声を出し、強いパスを出すように心がけるように教えていただいたので、ふだんの練習からパスを強く出す意識が強まりました。
- ・大学生と一緒に三角パスをさせていただいたので、とても速い三角パスを体感することができました。

- ・シュートではやったことのないステップを練習できたので、バリエーションが増え、リズムを体で覚えることができました。練習やゲームを通して自分自身の課題やチームの課題などが見つかり、とても貴重な体験ができました。
- ・大学生の指導はとても分かりやすく、プレーを見ているだけでもとても勉強になりました。1つ1つの基礎練習がとてもしっかりしていて、姿勢もよく、私たちに足りない部分がよく分かりました。
- ・お昼の時間もいろいろな話ができとても楽しかったです。こういうコミュニケーション、まわりへの気づかいができる人は、コートの中でもそういったことができるのだと思いました。短い時間の中で、体育館にいたみんなが楽しくバスケットができて、たくさん勉強できて、とても良い経験になりました。ぜひ、また参加して一緒に練習したいです。
- ・分からないところを聞く時間では、環境を作ってもらえたので、進んで自分から質問することができたから、こういう環境づくりも大切だと思った。
- ・普段の練習でウォーミングアップの時点で汗をかいたりすることはあまりなかったけれど、今回のクリニックのウォーミングアップは1つ1つの動きがとてもハードでびっくりしました。

4. アンケート結果からの検討

【大学生への影響】

地域貢献活動の一環として実施したバスケットボールクリニックは、感想からも分かるように大学生にとっても貴重な経験となった。普段は、個々のレベルアップやチームの強化という部分に重点を置いて練習に取り組んでいるため、楽しさよりも辛いことの方が多いのは事実であろう。しかし、このようなクリニックではバスケットボールの楽しさを再確認したり、スポーツを通してのコミュニケーションを実践したりする機会となっており、同じ練習内容でも雰囲気の違いは明らかであった。また、人に指導をすることでバスケットボールの基本を見直したり、技術を言葉にして伝えることを学べたり、スポーツに多角的に触れる機会となっているといえる。中には、将来教員や指導者を目指している大学生もおり、



写真6 食堂での昼食の様子



写真7 クリニック後の集合写真

社会人になるための実践練習の場として経験を積むことも可能となっている。

アンケート結果 から、クリニックは「すごく楽しかった」「楽しかった」が100%であったのに対し、アンケート結果 の相手に伝わるような指導ができたかどうかには対しては、「まあまあそう思う」が12名、「どちらともいえない」が4名で、「そう思う」の回答はなかった。このことから、自身の指導への課題は感じており、クリニック活動を定期的実施していくことで課題解決へつながると考えられる。

また、本学のバスケットボール部を知ってもらい、応援してもらえるような部を目指したいという思いが強く、積極的なコミュニケーションや一生懸命教えるという行動につながっていると考えられる。

【中学生への影響】

大学生と初対面ということもあり、クリニック開始直後はとても緊張した様子の中学生であったが、少人数のグループに分かれ学生から直接指導を受ける機会を多く作ったことで、徐々に積極的な会話が生まれるようになった。クリニックの感想から、ウォーミングアップや基礎練習の重要性を感じ取った中学生が非常に多かった。これは、本クリニックに重点を置いた内容であり、大学生の指導により伝わっていたことが分かる。

また、バスケットボールの技術面で勉強になったという感想のほかに、怪我で見学している選手への何気ない声掛けや昼食時の会話がコート内での気遣

いに繋がっていると感じていた中学生もおり、大学生のそのような姿を見てもらえたことは双方にとっていい影響を与えるものであったことが分かる。

本クリニックは、午前・午後の2部制で実施し、昼食は学生食堂を利用して大学生と一緒に取った。ここでの時間は、練習時間以上に多くの会話がありコミュニケーションがとれたという感想が多くみられた。今後もプログラムの一部として取り入れることは有効であるといえる。

まとめ

地域貢献活動としてのバスケットボールクリニックは、参加者にとってバスケットボールを普段とは異なる環境で行い、違った楽しみ方を体験したり学んだりする場となった。また、スポーツを通して年齢やレベルを超えた交流が実践できた。これらのことから、大学生と中学生の双方にとって有意義な活動であったといえる。

今後、本学の特別強化指定部における地域貢献活動が、大学・学生・地域の人にとってよりよいものになるためには、まず多くの人に本学の特別強化指定部の活動を知ってもらうことが大切であるといえる。そのためには、強化という点にこだわりを持って活動することが重要である。強いチームの競技に対する情熱というものは、非常に魅力的なものがあり人々をひきつける力がある。そのうえで、地域の人へのスポーツ指導やイベント等でふれ合う機会を提供し、地域社会に貢献する人材の育成を目指すことが重要であると考えられる。

参考文献

- 1) 富山浩三・川西正志・北村尚浩・石澤伸弘・仲野隆士・杉浦弘一 (2011) スポーツとまちづくりにおける大学の役割：育系大学の社会貢献を通じたまちづくりのあり方．SSF スポーツ政策研究 第1巻1号
- 2) 宮良俊行 (2010) スポーツを通じた大学の地域貢献について．長崎国際大学論叢 10：11-124
- 3) 文部科学省 (2017) 大学スポーツの振興に関する検討会議：最終とりまとめ - 大学のスポーツの価値の向上に向けて -